

1 工都川崎へ

(明治・大正・昭和初期)

川崎市の概要

川崎市は、神奈川県北東部に位置する細長い地形の市です。北は多摩川をはさんで東京都に、南は横浜市に隣接しています。交通面では、市内を縦断するJR南武線がとおり、南武線と交差するかたちで複数の鉄道路線が横断しています。また、羽田空港へのアクセスも良く、2022（令和4）年3月には多摩川スカイブリッジが開通しました。



農業や漁業がさかな町

明治時代、現在の川崎市は多くの町と村に分かれていました。ほとんどは農村で、主要産品は米でしたが、海に近い地域では、稲作とともに梨や桃などのくだもの栽培、塩づくりも行われていました。また、沿岸部には魚介類が豊富な遠浅の海が広がっており、アサリやハマグリ、アオヤギなどの貝類がとれました。1871（明治4）年に始まった海苔の養殖は「大師海苔」として県内最大の生産量を誇り、沿岸部の人々は冬に海苔を作り、夏はくだもの栽培や稲作を行う生活をしていました。



大師海苔の収穫
川崎港管理センター



海苔の天日干し
川崎港管理センター



東京湾川崎沖の貝巻き舟
川崎港管理センター

川崎と鉄道

川崎における鉄道の歴史は古く、1872（明治5）年に新橋－横浜間の鉄道が開通すると、川崎に停車場がつけられました。1899（明治32）年には、東日本初の電気鉄道である大師電気鉄道（現京急大師線）が開通し、その後、京浜電気鉄道（大師電気鉄道が社名変更・現京浜急行電鉄）、武蔵電気鉄道（現東急電鉄）、京王電気軌道（現京王電鉄）、小田原急行鉄道（現小田急電鉄）、南武鉄道（現JR南武線）、鶴見臨海鉄道（現JR鶴見線）が次々と開通しました。特に、省線（現JR東海道線）と京浜電気鉄道は横浜や東京から多くの人を川崎に集め、南武鉄道は多摩川の砂利と奥多摩のセメント原料を運びました。これらの川崎を縦断、横断する鉄道は、乗客とともに工場の原料や生産物の輸送に力を発揮し、川崎の発展に大きく貢献しました。



京浜電気鉄道 川崎市市民ミュージアム



南武鉄道 川崎市市民ミュージアム